義太夫

寺子屋

浄るり　竹本大隅太夫
三味線　鶴澤道八

【後八・二〇】寺子屋の段は「菅原傳授手習鑑」の四段目なので「菅四」とも呼び難曲の一つに數へられてゐる、武部源蔵は芦生の里に寺子屋を營みつゝ大恩のある菅公のお世繼菅秀才を我子の如くにして圍つてゐたが、これがいつしか時平の耳に入り源蔵は庄屋に呼ばれて、その首を討つて渡せとの嚴命、多くの手習子のうち身替りは、あれかこれかと考へながら戻つて見ると今日ひとり目鼻だちすぐれた子供が入門してゐたので心を鬼にして身替りにその子の首を討つた、檢視の役は松王丸、病にまぎらして涙に咽ぶも道理、これぞ松王丸の一子で女房千代と謀り身替りに立てたのであつたといふ筋、最後のイロハ送りのサワリは有名である、今晩はへかゝるところへ春藤女蕃……から最後までを語る